

たまち街角ニュース

令和7年夏季号
田町町内会

●学院大留学生との国際交流について

6月27日（金）18時から約1時間30分間、東北学院大学・ホーイ記念館1階にて、「大日堂祭典を通して学ぶ土曜の文化と歴史」というタイトルで、学院大の留学生との国際交流会を実施しました。

留学生6名、町内会からは子供たち4名を含め18名が参加。

最初の25分間は、田町町内会長として20余年に渡り尽力をつくされた森重旅館の森様から「田町の歴史及び「五ッ橋」及び「猿曳丁」名の由来そして大日堂祭典に参加する時の衣装等をユーモアを交えた分かり易い説明をしていただきました。今回交流会に参加した6名の女子学生と2名の男子学生（交流会は不参加）は、祭典時には、神輿を担ぐ予定であり、なかには、大日堂祭典に参加し、仙台七夕を鑑賞した後、台湾に帰国するという学生もおられました。

今回主催して頂いた学院大・国際交流課とは、祭典を通して長年にわたり交流があり、今回、国際交流事業に関して文科省から賛助金が下りたということで、国際交流課の石原さんのご助力により開催に至った次第です。



●斎藤七五郎記念元気広場の活用について

田町に隣接する荒町商店街や荒町町内会が、「斎藤七五郎記念元気広場」を日常的にイベント広場や地域の憩いの場として利用する構想を描いている。広場は荒町商店街西側入口付近にあり、広さ約500平方m、荒町小出身の旧海軍中将・斎藤七五郎の生家があった場所で「郷土の子弟教育に役立て欲しい」との本人の遺言により1934年に土地が市に寄付されている。2010年までは荒町市民センターとして使われ、移転後は空き地となっている。一角には斎藤を顕彰する記念碑が立つ。

荒町地区の関係者は地域の憩いの場所とし幅広く活用できる広場にしたいと考えており、若林区の助言により、荒町地区だけではなく、近隣の地区、大学を巻き込んで、広場を交流の中核になるようにとのことで、田町町内会も4月から参加しています。

広場活用の良いアイデアがあれば、田町町内会にお寄せください。

